

# ソプラノ宮良多鶴子

## あと復興応援

### バレンタインコンサート

◇ 日時 2020年2月14日(金)

13:30開場 14:00開演

◇ 会場 阿蘇立野病院 新館4Fコミュニティホール

※入場無料



ソプラノ歌手

宮良多鶴子(みやら たすこ)

沖縄県出身。首里高校卒。尚美音楽短期大学首席卒業。幼い頃から音に関心を持ち、2歳の誕生日に叔母からプレゼントされたおもちゃのピアノをきっかけに「音楽」に興味を持つようになる。

音大在学中は寸暇を惜しんで学び、卒業時には数千名の学生の中より学長賞「赤松賞」を受賞。卒業後、学びながら演奏活動を行っていた最中、カトリックの神父として終戦直後に来日し、広島で「人々の心を音楽で癒したい」とエリザベト音楽大学の前身である夜間音楽学校を創立した、同大学名誉教授の故・ルチアノ・ベルタニョリオ神父様に出会う。レッスンは例えようのない厳しさであったが、その度にベルタニョリオ神父様の「諦めない」という、最大の愛情でご指導頂いた。

音楽ばかりでなく、「何にも屈することなく『正しく生きる』ことの素晴らしさ、強さ」を身をもって示して下さった人生の師でもある。神父様の勧めで、国内の多数のコンクールに出場し優秀な成績を修めるも、音楽の可能性と自らの役割を見つめ続け、「音楽を必要としているところへ歌を届けにいく」ことが自らの役割であると気付き、それが現在の活動に繋がっている。2003年、これまで1人で行ってきた活動を皆が支えようと、第五代沖縄開発庁長官・元国務大臣・元総理府総務長官の故・植木光教氏を名誉会長に、多くの皆様のご支援のもと「宮良多鶴子後援会」が発足。

第二回沖縄平和賞受賞式典にて、平和祈念コンサートのアーティストに選ばれる。2005年海フェスタに於いては、秋篠宮両殿下の御前にて、宮良自身の一族でもあり、「沖縄のフォスター」と呼ばれている作曲家「宮良長包歌曲」を演奏。

2005年ポリビアの日本人移住地の4ヵ所での慰問コンサート、2008年東ティモール民主共和国グスマン首相(当時)の招待により国家行事での演奏、沖縄の離島でのコンサートなど、国内外での演奏活動を精力的に行っている。

2008年の東ティモールの各地での体験を通し、講演活動、国際支援・交流にも力を入れるようになる。2009年から年に数回東ティモールへ渡航し、孤児院や地方の貧しい子ども達へ、学用品、食糧、奨学金などを自ら届け、現地でコンサートをやっている。

2011年より日本と東ティモールの生徒交流プログラムを実施。若者の人材育成の為に国際交流に力を注いでいる。

一昨年よりインドネシア・バリ島の生徒交流も開始。バリ日本人会25周年、バリ・タマンロータリークラブ25周年、インドネシア全土ロータリークラブ総会でも演奏。

今年5月、バリ島で行われた「日本・インドネシア国交樹立60周年記念祝賀会」でも演奏。

「支援は第一に現場に入り、現場の声を聞く」を東ティモールでの支援で学び、東日本大震災時には被災地のネットワークを作り、物資の支援を行った。現在も毎年東北で「応援コンサート」を開催。

今年も10月下旬から約3週間、沖縄県、熊本県、福岡県で東ティモールの中学生、大学生の交流を実施する予定。

支援を必要としている人の心に寄り添い、「歌で世界中の人々の心を繋ぐ架け橋になりたい」と活動し続けている音楽家である。